岩手日報

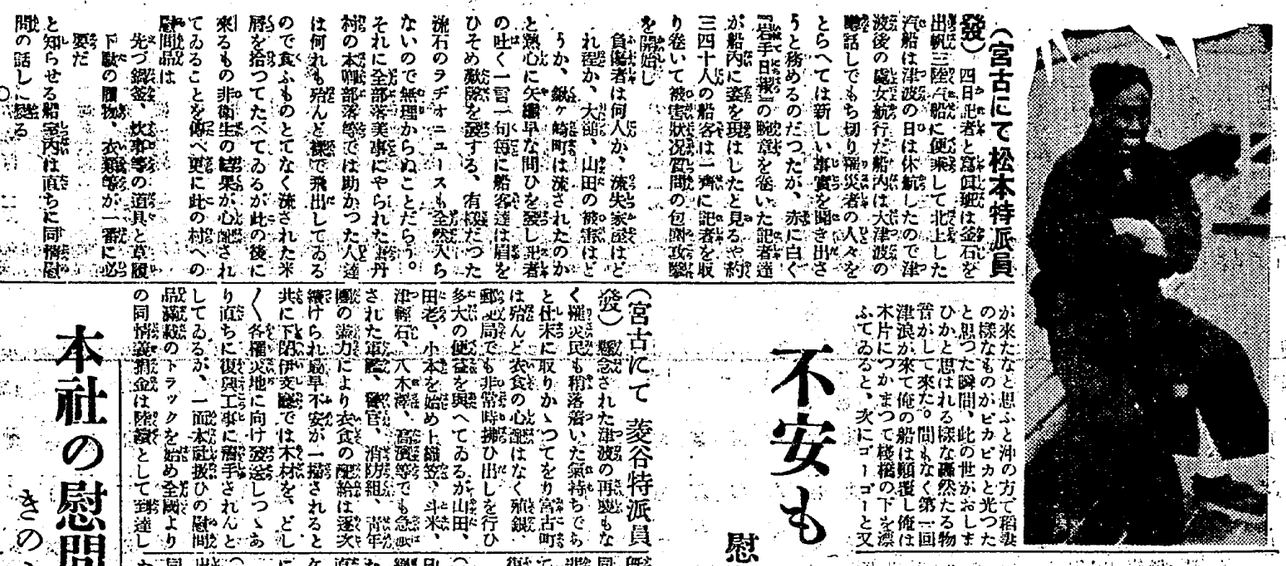
號外

（本紙不再錄）

明治廿五年三月十七日第三種郵便物認可
昭和八年三月六日發行
發行兼編輯人　下村　恒彌
印刷人　荒川　治助
發行所　盛岡内丸　岩手日報社

慘鼻の濱を行く

奇蹟、九死に一生
漁夫鈴木君遭難談
海上を釜石から山田迄



（宮古にて松本特派員發）四日記者と寫眞班は釜石を出帆三陸汽船に便乘して北上した。汽船は津波の日は休航したので津波後の處女航行だ船内は大津波の噂話しでもち切り罹災者の人々をとらへては新しい事實を聞き出さうと務めるのだつたが、赤に白く『慰手日報』の腕章を卷いた記者達が船内に姿を現はしたと見るやたちまち三四十人の船客は一斉に記者を取り卷いて被害狀況問ひの包囲攻撃を開始し

負傷者は何人か、流失家屋はどれ程か、大船、山田の被害はどうか、鮭ケ崎町は流されたのかと熱心に矢繼早な問ひを發し記者の吐く一言一句毎に船客達は肩をひそめ感嘆を發する、有樣だつた。流石のラヂオニュースも全然入らないので無理からぬことだらう。それに全部客美事にやられた丹羽の本職部落等では助かつた人達は何れも殆んど裸で飛出してゐるので食ふものとてなく流された米屑を拾つたべてゐるが此の後に來るもの非衛生の結果が心配されることを考へ更に此の村への慰問品は先づ鍋釜、炊事等の道具と草履下駄の履物、衣類等が一番に必要だと知らせる船室内は直ちに同情慰問の話しで熱る。○

さて災害の地釜石を後に四日午後二時半同じ汽船に乘再び海上に出た釜石驛口は釜石町火災の黑煙未だ漂ひ異樣なものが鼻にかゝる香ひが鼻をついてたまらない。出帆陸に殺と倒潰いかつた名のみの市陸樣に都市風部傷だらけの漁夫態の男が駆けつけて來て『マヽ命拾ひをした』とて樣の上にピタリ腰をおろした。山田町漁夫鈴木太郎（三八）と云ひ奇蹟的に九死に一生を得た人で山田町に歸る釜中と判つたが、遭難について聞る

俺は津浪の夜午後釜石桂橋の下に漁船をつけて、その中に寝てゐた。ミシミシ——大きな地震が來たなと思ふと沖の方で稻妻の樣なものがピカピカと光つたと思つた瞬間、此の世かおしまひかと思はれる樣な轟然たる物音がして來た。間もなく第一回の津浪が來て俺の船は顚覆し俺は木片につかまつて橋樣の下を漂ふてゐると、次にゴーゴーと又大きなやつが約三丈位の高さでまるで空の龍の樣に首をもたげてビュービューと飛んで來た。その時の凄さ、俺はガタガタと水の中をくゞつて後は何程に行つたか判らなかつたが氣がついて見ると俺は水の中にゐた筈なのに何處かに庭した家の軒だ。空を仰ぐと星が光つてゐる。はて変だなと思ふと其處は何かごみごみしたものの上で水の中ではない。そのうちに火事が始つた俺は誰かにかつぎ上げられたが後はもう判らない。釜石町の中に押し流されてゐたのだつた。青年團が消防の人に助けられたのだ。今日（四日）になつて身体の方々が痛いが命拾ひして不思議だ（寫眞は汽船甲板上の鈴木さん）

○

船は出帆した。洋上の波は靜かだが枕木とか材木がどんゝ流れてゐる。大船に入つて行くと樣樣ほど助かつてゐた町の方はひどくやられてゐるが盛樣附近は鮭合被害が少ない。樣には三日午後三時頃汽鐵で府から出動した驅逐隊員十餘名が到着し砂糖入り乾メボ、コンビーフ、毛布、米麥等の慰問品の配給にかゝる所だつた。鮭に大船を出帆した。洋上に海巻が迫つて來た。山田灣に進み入つたのが七時近い。もう夜だ。船内に二隻の驅逐艦が投錨して吾等の行手を探照燈で照らして障碍物の危ゐから後つてくれる。光を通して見る山田町の慘狀、惨口に亟した町の家々まるで活動のセットの樣に石倉の圍さへもちさらはれてゐる倒潰家屋は五百戸、全町のうち七百戸が殘を免れた

不安も一掃さる
慰問、木材もどしどし到着
復興更生の決意

（宮古にて　菱谷特派員發）戀ゝされた津波の再襲もなく罹災民も稍落着いた氣持ちである。と仕末に取りかゝつてをり宮古町は殆んど衣食の心配はなく殘鍬、鋸、鉈でも非常時拂ひ出しを行ひ多大の便宜を與へてゐるが山田、田老、小本を始め上鎚笠、斗米、津軽石、八木澤、高濱等でも急派された軍醫、警官、消防組、青年團の協力により衣食の配給は逐次繰けられ意早く安心が一掃されると共に下閉伊支廳では木材を、どしゝ各罹災地に向け發送しつゝあり直ちに復興工事に着手されんとしてゐる。一部本社扱ひの慰問品藏藏のトラックを始め全國よりの同情慰問金は隨藏として到達した

既に配給に取掛つてをり罹災民一同も同胞の厚情に感謝の念を寄せ悲しみの内にも更生の炎に燃えてゐる。各地の通信機關は殆んど復旧するに至つた

○

（同上）朝來の降雪と風浪のため五日は殆んど各地への慰問交通は杜絶され下閉伊支廳では愛慰してゐたが午後に至り風雪も止んだので直ちに小滝沢に食料品を藏藏し鮭崎を出發田老村及び各濱部落に夫々配給した

×

（同上）綾瀬興業株式合資會社宮古出張所長一同は今大津波の慘狀に同情し金五十圓の寄贈方を申出でた

本社の慰問品
きのふ久慈方面へ

ラマ芋二俵毛布一包手拭一包莫蓙四十枚衣類十三梱醤油十五樽驛鹽詰四打六五箱等である

災害義捐金
〔五日　本社扱〕

三圓　磯野町菊池孝一　五圓　岩手尻運送會社々員一同　五圓　岩手郡松尾村君等之會　五圓　盛岡中ノ橋通り花清　五圓同十三日　五圓同大清水小路寺井社中風交會　五圓同佐藤手二郎　五圓同鮑屋町小川材木店　五圓十銭同内丸盛岡夜間中學生徒一同　衣類盛岡瓦斯會社大嶽　薬品盛岡柳屋町亀池薬店　帽子、シャツ同看町川村洋物店　下駄一七足　五百袋勢木石鹸二百箱子四百毛足袋　五十軒内花屋町花屋　一圓六十銭各戸　長本店

慰問品
〔市役所　五日迄〕

累計九百八圓四十五錢

銀行閉鎖けふ市民大會

母の日パンフレット
男女中等校へ

八角代議士

丹羽長官視察日程

大槌配給遅し

大槌の二部落
一品も未配給

十圓　鵜入十枚　單衣十枚　雨傘十本　小田島農銀支店　マント一枚　土澤屋方黑江　一圓　木挽　長谷　久吉　養油四樽　湯場　一樽　供物子　其の他生活　太郎　一圓七十銭加賀町山本琢郎　珠　曾二十貫盛岡金剛講　雜品七六　倒茅町會　三十圓東京市小石川　一圓　東京市川　三十六梱　一九二三點盛岡市場　三　分會　水原町勝久興左衛門　四郎　丸金剛珠院往職　二圓内　類十點東京浅草區田島町　寄崎實　衣類十點無名氏　同五圓下小路　弱島鎮雄　衣類一足袋一下小路　鶴尾正雄　一圓十五銭城南小學　校五年生鶴尾正博外三名　衣類　四十五點ホーリネス教會　百　十五圓十二銭（三百七十名）　衣　類十八梱食料品四海櫻城婦人會　男女青年團

この紙面の著作権は岩手日報社が保持しています。無断転載、複製及び配布は禁止します。